



# 埋文だより

第48号

平成20年10月10日発行

とら い じょう あと

## 速報！ 虎居城跡

「松社城」

「近藤屋敷」

「中の城」

「おきたの城」

「塩の城」

### 川内川に突き出した城跡の全景

宮之城市街地

発掘調査区

虎居城跡

虎居城跡は、鹿児島県における代表的な中世城郭のひとつです。三方を川内川が取り巻き、川が堀の役割を果たすいわば天然の要塞とも言えます。

平成18年の豪雨災害の後、川内川の河川改修が進められ、虎居城跡を横断する分水路が建設されることになりました。そこで、これに先立ち大規模な発掘調査を行っています。

城には、曲輪と呼ぶ台地とそれらを取り巻く堀があります。今回は「塩の城」「中の城」「近藤屋敷」「おきたの城」の曲輪を調査します。

### 目次

- ・速報! 虎居城跡……………1
- ・特集「国指定から10年 上野原遺跡」……2・3
- ・発掘調査中の遺跡紹介……………4
- ・埋文豆知識⑧ 天然のガラス『黒曜石』……5
- ・地域が育む「かごしまの教育」県民週間  
～現地説明会のお知らせ～……6

# 特集 「国指定から10年 上野原遺跡」

上野原遺跡の出土品767点が国の重要文化財に指定されてから本年6月で10年を迎え、同集落跡の国史跡指定も来年1月には10年目を迎えることとなります。遺跡の保存・活用を図るため、県は「鹿児島県上野原縄文の森整備計画」に基づき、平成14年4月に「県立埋蔵文化財センター」を始良町から移転し、10月には当センターや展示館・体験学習館等を含む「鹿児島県上野原縄文の森」がオープンしました。

また、平成19年には「日本の歴史公園100選」にも選定され、すでに80万人近い人々がこの地を訪れています。上野原縄文の森では、地域やボランティアの方々と協力しながら、各種イベントの開催や体験活動など、地域に密着した活動も展開しています。

## 当時のくらしを語る出土品

7,500年前とされる出土品には、国内最古の壺形土器や、九州最古の土偶、この時代としては大変珍しい耳飾り、用途が不明な土製品、さまざまな形をした石器などがあります。

その中から、総計767点（深鉢形土器12点、壺形土器14点、土製耳飾り18点、土偶1点、石鏃、磨製石斧、打製石斧等の石器・石製品類640点など）が国の重要文化財に指定されました。



埋納された壺形土器



耳飾り

異形石器



土偶

祭りの広場

県立埋蔵文化財センター

上野原縄文の森展示館

復元集落

地層観察館

落葉広葉樹林

重要文化財出土区域

照葉樹林

## 国内外各地の展覧会にも出品

上野原遺跡の遺物は、縄文の森展示館で公開されています。また、国内外の展覧会等にも出品され、活用されています。

出品年度	主催・場所等	展覧会等の名称
平成10年度	文化庁・全国7館	「新指定の国宝・重要文化財展」
	鹿児島県教育委員会・黎明館 北九州市考古博物館	「国指定重要文化財 上野原遺跡出土品」 特別展「西と東の縄文土器」
平成11年度	黎明館	「縄文のあけぼの—南九州に花開いた草創期文化—」
平成12年度	東北歴史博物館	春季特別展「縄文時代の日本列島」
平成13年度	東京国立博物館	特別展「土器の造形—縄文の動・弥生の静—」
	国立歴史民俗博物館	「縄文の文化の扉を開く—三内丸山遺跡から縄文列島へ—」
	国立科学博物館	「日本人はるかな旅」展
平成16年度	ドイツ・ハンノイ市・ベルリン市	「曙光の時代—日本考古学の連続と変革—」
平成17年度	西都原考古博物館	特別展「大地に根づくころ」
平成19年度	大阪府立弥生文化博物館	秋季特別展「日向・薩摩・大隅の原像—南九州の弥生文化—」
	兵庫県立考古博物館	開館記念展Ⅰ「発掘—日本の原風景」

## 縄文時代早期前葉の定住化した集落跡

9,500年前の集落跡は、2筋の道に沿って広がり、52軒の竪穴住居跡のほか、集石遺構、土坑、炉穴等の遺構が発見されました。これらの遺構は、いくつかの群をなし、複数の時期にわたると考えられています。

初期の定住集落としては最大級とされる重要な遺跡です。



遺跡保存館

復元住居



展示館内 常設展示室

9,500年前の縄文ムラ

遺跡保存館

## 縄文時代の森を再現

「復元集落」では、竪穴住居や集石遺構を復元しています。また、公園内の南側にはシイやカシなどの照葉樹林を、北側にはコナラやブナなどの落葉広葉樹の森を育成しています。それぞれ、7,500年前と9,500年前の植生を再現しています。

## 南の縄文調査室

当センター「南の縄文調査室」では、上野原遺跡や南九州の縄文時代に関する調査研究のほか、研究の成果や発掘調査・整理作業等の情報発信を行っています。また、上野原縄文の森と連携して、年3回の企画展の開催や遺跡保存館・地層観察館などの遺構・遺物や土層をそのままの状態に保存するために、絶えず室温と湿度のデータをとりながら、管理を続けています。

# 発掘調査中の遺跡紹介

## 城内に作られた鍛冶場跡か 虎居城跡(さつま町)



中央に炉跡が見える礎石建物跡

虎居城跡では、県内の中世城郭の発掘例としてはこれまでにない広い範囲を調査しています。現在、「塩の城」から土塁やかまど跡、「近藤屋敷」から掘立柱建物跡や溝状遺構などさまざまな遺構が検出されています。

写真は、「おきたの城」と「近藤屋敷」の間にある谷間で検出された礎石建物跡で、鉄製品の生産に関する遺物が大量に出土しました。鉄滓や鞆の羽口が、16世紀末頃の土師器と共に出土している状況から、鍛冶場と考えられます。

## 平安時代の墨書土器2点 川骨遺跡(薩摩川内市)・天神段遺跡(志布志市)

川骨遺跡は南九州自動車道(西回り)、天神段遺跡は東九州自動車道の建設に伴い発掘調査をしています。この2つの遺跡で、それぞれ平安時代の墨書土器が発見されました。

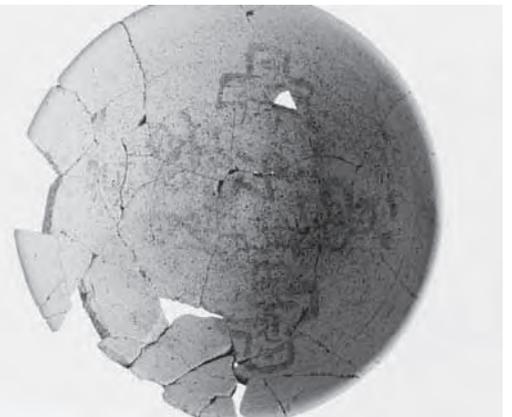
川骨遺跡のものは、土師器の坏の外側に十数の文字が書かれています。また、文字の他に、「目」を連想させる2個の丸印と「波」を表しているような線も描かれています。

一方、天神段遺跡のものは、坏の内側に描かれています。「凸」のような記号が、対面するように3か所に配置され、その中に文字が書かれています。

いずれも現在、解読を続けていますが、呪術に関わりがある可能性も指摘されています。



川骨遺跡出土の墨書土器



天神段遺跡出土の墨書土器

## 「樹皮布叩石？」が出土 十三塚遺跡(鹿屋市)

十三塚遺跡は、東九州自動車道の鹿屋串良インターの予定地にあります。

現在、弥生時代中期の竪穴住居跡4軒を検出し、細長い棒状の叩石や鉄器専用の砥石などの遺物も発見されています。

右の写真は、「樹皮布叩石」とも呼ばれるもので、樹皮を叩いて繊維を取り出すときの道具とされています。同じ鹿屋市の王子遺跡に次いで、県内では2例目の発見です。



弥生時代の住居跡



樹皮布叩石

# 埋文豆知識⑧ 天然のガラス「黒曜石」



建山遺跡（曾於市）出土の黒曜石  
細石刃核

黒曜石は、ガラス成分を多く含むマグマが水中に噴き出すなど特殊な状況のもとで急に冷やされてできた天然のガラスです。

ハンマーで叩くと薄い板状に割れていき、割れ口は外科手術のメスにも使われたことがあるほど鋭い刃物になります。そのため、旧石器時代から各種の石器に使われてきました。

## 黒曜石はどこでとれるの？

黒曜石はもともと特殊な環境でできる岩石であるため、採取できる場所は限られています。

鹿児島県内では、大口市日東や鹿児島市三船など十か所ほどの原産地が知られています。県内各地の遺跡から出土する黒曜石もこれらの産地から運んできたものです。しかし、一部では



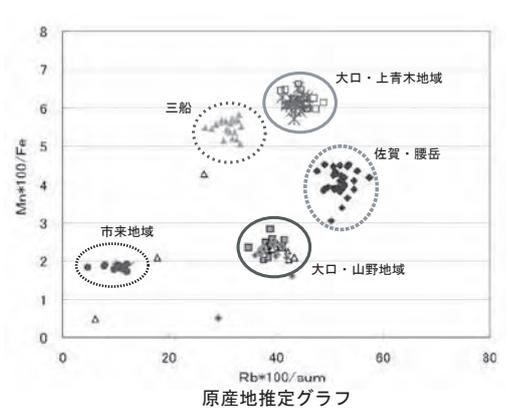
鹿児島県内産でない黒曜石も出土しています。

写真の黒曜石は佐賀県腰岳産で、曾於市大隅町の建山遺跡で出土しました。鹿児島県内の主な黒曜石原産地（○印）出土した層は薩摩火山灰（約11,500年前）よりも古い層でした。また、同市末吉町の桐木遺跡では桜島P11火山灰（約7,500年前）とアカホヤ火山灰（約6,400年前）に挟まれた層から大分県姫島産の黒曜石が出土しています。このように古い時代から、すでに九州の南と北の交流があったことを示しています。

## 黒曜石のふるさとを調べる

それぞれの産地の黒曜石を見比べてみると、表面に白い粒や縞模様（もよう）がみられたり、色合いが違って見えたりします。これは、ガラス質に含まれる不純物の種類や量によるもので、各産地ごとに特徴があります。この特徴を調べることによって、原産地を推定していくことができるのです。

遺跡から出土する黒曜石の成分を分析する方法として、「蛍光X線分析（けいこうXせんぶんし）」がよく用いられています。右の図は、鹿児島県内の主な黒曜石原産地と佐賀県腰岳のデータをグラフにしたものです。それぞれの原産地ごとに特徴があることがわかります。県外のもも含めて、できるだけたくさんのデータを集めてグラフ化しておき、遺跡から出土した黒曜石のデータと比較していけば、どこの産地のものか推定することができます。



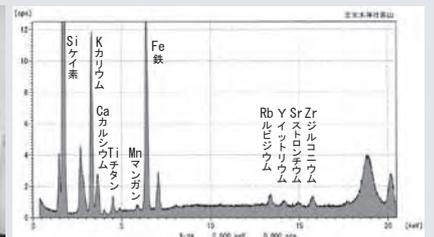
## 考古学の世界で活躍する分析機器②

### 蛍光X線分析装置

蛍光X線分析装置は、分析する物の中に、どのような成分（鉄や銅、カルシウムなど）がどのくらいの割合で含まれるかを測定することができます。当センターに導入されているのはエネルギー分散型というタイプで、遺跡から出土する遺物をそのまま壊さずに分析することができます。この装置で、黒曜石の成分分析のほかに前号で紹介した赤色顔料の種類（ベンガラ・水銀朱など）を調べたり、金属製品の成分などを分析しています。



分析装置



分析結果（スペクトル）

# 地域が育む「かごしまの教育」県民週間～現地説明会のお知らせ～

当センターでは「かごしまの教育」県民週間にあわせて、現地説明会を行います。ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

## 虎居城跡（薩摩郡さつま町宮之城屋地）

堀や土塁などの城郭特有の施設や鍛冶に関連する遺物、建物の礎石跡などを紹介します。

日 時	11月8日(雨天決行) ①午前10時～12時, ②午後2時～4時
内 容	遺跡説明や体験活動
お問い合わせ先	虎居城跡発掘調査事務所
電話番号	0996-52-2334



## 十三塚遺跡（鹿屋市串良町細山田）

弥生時代中期の4軒の竪穴住居跡や県内でも珍しい樹皮布叩石などの石製品を紹介します。

日 時	11月22日(雨天決行) ①午前10時～12時, ②午後2時～4時
内 容	遺跡説明や体験活動
お問い合わせ先	石絵・十三塚遺跡発掘調査事務所
電話番号	0994-62-3922



その他の遺跡でも発掘現場の見学ができます。詳しくは各発掘現場事務所までお問い合わせください。なお、今年度の発掘現場については、埋文だより第47号や上野原縄文の森ホームページで紹介しています。

## 学ぶ・深める・活用する

当センターでは、この夏、児童・生徒や教員、市町村教育委員会職員を対象に、多くの体験活動や研修を行いました。

行 事 名	実 施 日	対 象
埋蔵文化財専門職員養成中級講座	7月2日～4日	市町村埋蔵文化財担当職員
パワーアップ研修	8月7日・8日	教員10年経験者
フレッシュ研修 埋蔵文化財専門職員養成初級講座	8月18日・19日	新任教員 市町村教育委員会職員
鹿児島県中学校理科部会研修会	8月18日	中学校理科担当教員
きりしまキッズinサマー	7月23日ほか	霧島市内の小学生
発掘体験活動	夏休み期間中	鹿屋市、大崎町の小学生



きりしまキッズinサマー  
体験活動の様子

この他、各市町村の体験活動への協力や中高生の職場体験学習、インターシップ活動への対応なども行っています。

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。  
なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

## 埋文だより 第48号

発行日 平成20年10月10日  
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター  
〒899-4318 鹿児島県霧島市  
国分上野原縄文の森2番1号  
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820  
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>  
E-mail: [maibun@jomon-no-mori.jp](mailto:maibun@jomon-no-mori.jp)